

タイトル	人のいる校内風景画			
学校名	千葉県立東葛飾高等学校	美術	氏名	大城戸仁志
教材費	約2,300円	実施時間数	22時間	

### 1. ねらい

高校生活も2年目となり、日頃見なれた景色の中に本人に多くの影響を与えていたり、活動にとってなくてはならない場所というのがあると思う。そういう場所に対する思いを絵画として表現させてみたい。4月から7月までという長い制作期間になるので、鉛筆デッサンと淡彩に加えて、途中から必要な箇所にアキーラガッシュを使って描き進めさせる。異なる画材を使い分けることで画面に変化を出し、また、風景画の中に人物を登場させることで世界を作り出す楽しみを体験させる。この制作そのものが彼らの高校時代の思い出に加わることになれば良いと思う。

### 2. 材料

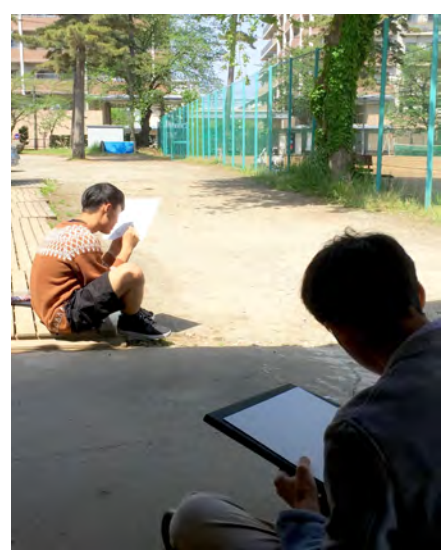
鉛筆、水彩色鉛筆24色、サクラ水筆、黒ボールペン、B4サイズ 2mm厚両面イラストレーションボード、アキーラガッシュセット、ポートフォリオなど。



### 3. 展開（時間）

#### (1) 作品鑑賞名作風景画の研究（4時間）

歌川広重の浮世絵からコロー、ミレーや印象派やユトリロなどの風景画の中から一つ選んでよく見て模写させる。特に人の描き入れ方に注意させる。



## (2) モチーフ選びと荒描きスケッチ (2時間)

授業前までに校内を見て回り、スケッチポイントを何カ所か見つけておく。そうしないと2時間歩き回って終わりになってしまう。選んでみた二つの構図をボードの裏表に大づかみに薄く描き留めておく。時間になって美術室に戻ったらどこで何を描くことにしたか語らせるようにする。次の授業までの間にもスケッチ場所を探してみる。

## (3) 鉛筆デッサン (2時間)

この時間でモチーフは決定。描き始めが重要である。遠近感の意識を持って見たり、視点の工夫、画面の地平線の位置などの他制作のねらいを何度も確かめる。着彩のイメージを持ちながら、鉛筆デッサンの段階でどこまで表現するか考えて描き進める。全体から部分へと描き進める。よく見て描くためにできるだけ画面を持ち上げる工夫をして、地面や膝の上にボードを置いてうつむいて描かないように。



## (4) 淡彩開始 (4時間)

構図が決まったら透明水彩。明るく鮮やかな色から、薄い絵の具を乾かしながら重ねていく。着彩の苦手な生徒には、青系と茶色系を調節しながら明暗を作り、陰影で広がりを出すところから始めることを紹介する。ただし、このやり方は地味な色使いになりやすいことに注意が必要。はじめから説明的に色をつけたり表面的な細部の描写はしない。

水彩色鉛筆を使う理由は手軽だから。パレットや水バケツなしで混色や塗り重ねができる。基本的には乾いてから色を重ねる。着彩が進んでいくと形がぼやけてメリハリが弱くなってくるので黒ボールペンで線を描き起こす。どこで紙の白を生かすかよく考えて進める。



## (5) 必要な部分にアキーラガッシュで描き重ねる (6時間)



透明水彩とは違った不透明な性質を活かして使っていく。塗り直しも色による線描きも可能な便利な絵の具だが、塗ったところはその後から透明水彩は二度と使えなくなることに注意する。



透明水彩をいかすところには塗らない。部分的な盛り上げも可。用具の手入れや扱い方に注意する。(アキーラガッシュは陽射しと風で乾きがかなり早くなるので注意が必要。) 授業の初めにはいつも2年生全体の作品を見ることができるようにする。雨や強風などで戸外での制作ができない時は美術室で描く。

(6) ひたすら描きこんで完成。最後に制作レポートを書いて提出。(4時間)



#### 4. 指導上の留意点

##### (1) マナー面

- 授業中に屋外スケッチをするとき、他の授業の邪魔にならないよう気をくばる。
- 校舎内での制作は他の授業の邪魔になるので不可。屋外であっても友達との会話をするこは、夏になって他は窓を開けて授業をしているので大変迷惑になる。
- 給水場所の確認。汚れた水の捨て方に注意する。
- 給水のほかの飲食禁止。
- 移動時には必ずポートフォリオに画材を入れて持ち、美術の授業中であることを示す。

##### (2) 安全面

- 直射日光の当たる場所は避ける。必要に応じ帽子など各自工夫する。害虫対策。急な小雨や強風への備え。

##### (3) 表現面

○描き始めにおいては大づかみなものの見方を心がけさせ、地平線の位置などから世界を画面の中に作っていくことを理解させる。表現のねらいを大切に持たせるようにする。まず大地があつて人の活動する風景が生まれると考え、決して一番先にすぐに目につく、表面的で一時的なことから表現を始めないよう意識させる。樹木の葉はまず影の塊として捉え、周囲の空間に及ぼす影響を表現した後に一番外側の枝葉の表現をする。

着彩については、薄い色の薄塗りから始めること。基本的には乾いてから塗り重ねる。また薄い青系や茶系の混色で陰影の調節をして始めるのも失敗の少ないやり方だが、塗り重ねて色を作っていくようになるのは良いが、地味な色彩の絵になりやすい。これらいくつかの方法を例として紹介するが強制はしない。

描き入れる人物がその場にいることはまずないので写真や別の時のスケッチを利用しても良い。

- (4) 鑑賞 ○授業の初めに2年生全員の作品を見るようにさせる。

#### 5. 観点別評価の基準

##### ① 美術への関心・意欲・態度

校内の風景を観察し、美しいと感じる構図を発見し、じっくり制作に取り組もうとしている。

##### ② 発想・構想の能力

視点や色使いを工夫し、構図や色彩を感じながら描いている。

##### ③ 創造的な技能

用具の特性を生かし、自分にあつた表現方法を発見し追求している。  
異なる画材を表現に合わせて使い分けている。

##### ④ 鑑賞の能力

他の生徒作品の良さや美しさを感じ取り、書き言葉話し言葉で伝えることができる。